

ICT のチャレンジ概要（ロイロノート活用）

趣旨 ・ ロイロノートの活用し、さらに運動量を確保する。効率的に学ぶ

(技能面)

1 よい動きの動画配信

- ・ よい動きを動画配信できること。(集まって確認する時間を削減)
各グループの iPad により動きを送信できること。それをスローで流したり見てほしいポイントを赤のマークで示すことができる 自然と消えるもの

(思考判断)

2 動きを見て、コメント、それを録音 → 動画と録音を先生に提出できる。

- ・ 生徒同士が撮影し、撮影した動きについてのコメントを録音できる。その動画とコメントを録音されたものを提出できる。
→ 動きをみてコメントできるということは、その知識があるということ、その動きを見る目が備わっていること、今までは観察で評価していた。しかし、実際の授業では、すべてのグループは見とめることは難しい。授業後にしっかりと動画で何を言っていたか確認することができる。今までは、ここを書き物、プリントにして、書いてきた内容で思考判断を評価していた。ここをどのように話しているのかを把握できる。
* 実際、ロイロノートだと 1 日 10 分程度で、評価することができる。

3 データを蓄積できる、それを 3 年間使いたいときに、すぐに引き出せるメリット

- ・ 動画をとりためる。
・ 振り返りをデータで残す。(一人一人のペンがあれば、データ上で残してもよい)
次の同じネット型の単元を行ったときに、共通の動きを確認することができる。
自分の資料ボックスにためることにより、学びの過程をポートフォリオすることができる。教師も形成的な評価につながる。

4 単元の最初の姿、中盤の姿、最後の姿を生徒自身がすぐに確認することができる。

ロイロの場合、自分の動画を 1 時間目、5 時間目、10 時間目の動画をつなぐことができる。それを提出させることで、教師側も変化や伸びを短時間に把握することができる。

(教師側のメリット)

5 評価のための動画管理がとてもしやすくなること

- ・提出ボックスに、提出された動画を教師の i P a d 上ですべて見るができる。
→今までは、生徒の i P a d に 1 台に保存されていたので、教師がその動画を取り出す作業が苦しかった。取り出す作業に時間がかかるため、すぐにデータがいっぱいになり、次の授業で使用したときに、まだ抜いていないデータを消さなければならなかった。これがクラウド上に保存されているので、データがいっぱいになることはほぼないこと、教師側の作業としてかなりの時間短縮であること。

(生徒の動き)

- ・ 今回は、生徒にアンケートをとり、自分専用の情報端末をもっていない生徒を i P a d 係を割り当て、情報機器に慣れるようにころみた。
- ・ 毎時間、授業がスタートする前に、i P a d 係が、それぞれロイロノートにログインしている。動画を撮影した後は、提出ボックスに提出することを単元を通しての約束としている。
* ログインの I D パスワードの管理

【今後の検討課題、試みたいこと】

- ・ 全員が i P a d を使っても、耐えられる環境にあるかどうか
- ・ i P a d を使うことにより、マネジメントに時間がかかる慣れること、身近になること
- ・ 生徒が使いたいときに、i P a d を使って、課題を解決する
- ・ セキュリティの問題
- ・ 家でも、自分の動きが確認できる。体育の宿題、予習としての使い方
- ・ もちろん、教師側からの動画配信、遠隔授業につながる、ズームを入れる